

Chat GPTに訊きました 001

大学教授は専門家と言えるのか？

質問者：永山 功

回答者：Chat GPT

【質問】

テレビ放送などのメディアにおいて、話題性のあるニュースに大学教授が専門家という立場でコメントする場面がしばしばあります。しかし、その発言がただの個人的な感想にしか聞こえない場合が多くあります。本当に彼らを専門家と呼んでもよいのでしょうか？

【回答】

確かに尤もと言えそうな疑問です。実際、テレビなどのメディアに登場する“専門家”の中には、そのテーマの“本当の専門家”とは言えない人も少なくありません。視聴者として違和感を覚えるのは自然なことのように思えます。

報道番組では、ある話題（事件、事故など）について大学教授などが“専門家”としてコメントを求められる場面がよくありますが、「大学教授＝その分野の専門家」とは限りません。

大学教授といっても、各分野は細かく分かれており、例えば、経済学と一口に言っても、金融政策、マクロ経済、ミクロ経済、労働問題など、その専門は多岐に渡っています。それにもかかわらず、自分の専門外的话题にまでコメントしているケースが少なくありません。その結果、内容が薄くなったり、説得力を欠いたりすることが多いのです。

また、メディアでのコメントは時間の制約も大きく、数十秒から数分でわかりやすく話すことが求められます。そのため、細かいデータや背景を省き、断定的な言い方になることが多く、「それは本当に専門的な知見なのか？」と疑問に思ってしまうのも無理はありません。特に、メディア慣れした一部の識者たちは“印象に残る発言”や“話題性”を優先し、結果的に、根拠の薄いコメントをする傾向も見受けられます。

これと比較して、民間のシンクタンクや企業のアナリストが発するコメントは、もう少し的を射た発言をし、現実的に感じられることが多いようです。これにはいくつか理由があります。

まず、彼らは日常的にデータ分析や現場とのやり取りを通じて、現在起きていることをリアルタイムで把握し、クライアントや社会に向けて情報を発信していることで

す。つまり、“現場感覚”、“現実感”があるのです。さらに、彼らは、仕事の上で、自らの発言や予測の正確さによって評価される立場にあり、それが外れれば信頼を失います。そのため、発言には責任感があり、根拠がしっかりしていることが多いのです。

また、民間の専門家は、自分の専門外のことにはあまり踏み込まない傾向があります。例えば、為替のアナリストが株価や地政学リスクに対して無責任にコメントすることはほとんどありません。自分の守備範囲に集中する分、説得力があるのです。さらに、専門外の人にも伝わるように話す能力を日頃から鍛えており、説明も明快なことが多いようです。これは、日常の業務でプレゼンテーションやレポート作成をしているからこそ得られるスキルと言えます。

もちろん、民間の専門家にも偏りはあり得ます。企業の利害関係や業界の立場、政策へのスタンスなどがコメントに影響する場合があります。このため、彼らの意見も無条件に信じてよい訳ではありません。ただ、根拠に基づいた説明や、現実を踏まえたコメントという点では、大学教授の発言よりも実用的で納得感のある発言が多いと言えるでしょう。

結局のところ、「大学教授だから信頼できる」「民間のアナリストだから正しい」と単純に判断することは禁物です。その人がどの分野のどの領域の専門家であって、何を根拠に発言しているのかを意識的に見極めることが大切です。情報が溢れる時代においては、受け手が、①誰が、②何をもとに、③どの立場から発言しているのかを見抜く力を持つことが求められます。そして、それが良い判断に繋がると思います。

【補足】

この Chat GPT の回答が正しいことを正確に言っている保証はまったくありません。質問者の質問に対して Open AI のデータベースを基に、関連する情報を寄せ集めた結果であることを正しく理解する必要があります。